

いしゃ先生

町おこし映画顛末記

▶20

美佳 あべ

1935(昭和10)年からは「この作品を成功させらる62年にかけて、西川町大たい」という皆の一途な思に尽力した女医・志田周子の生涯を銀幕へよみがえらせるための映画製作準備が着々と進行中だ。

私は物語の原作者であり脚本担当なので、本来ならすっかり自分の仕事は終わつて、そろそろ次の執筆にかかるてもいい頃だ。だが、今日はそうはいかない。監督が気に入った良い塩梅の棚田があると聞けば貸してもらうために民家へ飛び込み、昔ながらの杭掛け風景が必要だと言われれば、父ちゃんに頼み込んで稻の手刈り応援隊を探す。

作家というより映画好きの世話を焼きおばちゃんになつてしまつているが、すべて

訛り加減で四苦八苦

るか、印象的なキーワード

(じえじえじえ、とか)を

「……はい、カメラ回り

つくれるか等々、作品の良

しあしに直結する重要な

ポジションを担うことにな

る。

先日、東京都内のある

梯次郎! 便所が?」「た。

私の声を、あの有名な

は、全国的には伝わらな

い。地元の私でさえ分か



けろ」「おと思うと、胃いキリキリしないのだ。言葉の意味がい、こう!」てくる。おつかねごど。方言指導など、ひと伝わらなければエンターテインメントの力も半減してしまう。……さあ、どうにやる役を一人でしゃべるの役を一人でしゃべるのにやつ思い出すことがある。私が脚本を担当し、2006年に放送された「かあちゃんが来た!」というドラマが脚本を担当したこと。外国人あ。しかも花嫁が題材のドラマで、そのときもオール山形ロケだべさん、感覚たため、私も現場に同行情は入れずになるべく事前に方言指導の先生が吹き込んだテープでズーズーいします」弁を勉強しててくれていとか「でも」という。さあ、いよいよ方言の意味本番が始まつた。だが……が分かるよううにアクセする言葉が聞き取れないのだ。撮影を見学しに来ていた地元の人も「ほだな言葉、今つかねはー。いつの時代の言葉だぞ」とことこそントの強弱はつけてくださ話している。なるほど、方言が古いの難しいことを注文してくれた! シーン4、かもしか学園・教室・内廊下」。助監督の声を合図に甦らせる会の副会長に志田周子の生涯を銀幕に「おめの方言は尾花沢弁だけ」と言われたことはこの際気にせず(同じ村山だべしたあ)、「さすけね、さすけね」の精神で進んでいきます!

出身

II月1回掲載します